

目録スキルアップのために ～知識と経験の共有を目指して～

平成 15 年度総合目録データベース実務研修

京都大学 大橋亜紀子

北陸先端科学技術大学院大学 菅生優紀恵

大阪市立大学 中橋 巧也

平成 15 年 11 月 20 日発表

はじめに

- ・目録スキルアップのためにはどうしたらよいか？
個人レベルではどうしても限界がある

図書館職員による『知識と経験の共有 (Knowledge Management)』

- ・『知識と経験の共有』のための 3 つの提案
 - 共通のマニュアルの作成
 - 研修の実施
 - Q&A システムの構築

1 共通マニュアルの作成

- ・ マニュアルを作ることで、自らの知識を整理することができる
- ・ 成果物を目録業務へ直接利用できる
- ・ 共通のマニュアルを利用することで、『知識と経験を共有』することができる

1 - 1 目録規則(NCR,AACR2)の全文 DB

- ・ ツールを効率的に使う為に
経験を積まなければ、これらの目録規則やコーディングマニュアルの参照すべき箇所が分かりにくい
- ・ ツールで不十分な部分を補うために
市販の目録規則解説書が存在することからもわかるように、これらのツールだけでは判断に迷う事がある

(内容)

- ・ 全文を対象とした横断検索
- ・ 検索結果は、各ツール別に一覧表示

- ・ 規則だけでは不十分な点について、解説・解釈を加える
- ・ 各項目から、事例が参照できる
- ・ 解説・事例については、随時更新

(取り組みについて)

- ・ 目録担当者が、自分の為だけに作成しているメモやファイルをまとめて参照可能にするだけでも有用
- ・ 各機関で取組み、徐々に参加機関を増やす事も考えられる
- ・ 全国レベルの取組であれば、より充実した事例・解説を加える事が可能

1 - 2 重複書誌 DB

重複書誌の判断の一助として

NII で削除された重複書誌は、新規書誌を作成するべきかどうかを判断する際の有力な手がかりとなる

(内容)

- ・ 重複書誌、情報源、解説(削除に到った判断根拠など)をセットとする
- ・ フィールド、単語による検索機能
- ・ 原因タイプ別にブラウズできる
- ・ NII による作成が効率的
- ・ 重複書誌発生の原因をパターン分析し、ニュースなどで広報する事で、類似した図書を登録する時に、注意を喚起できる

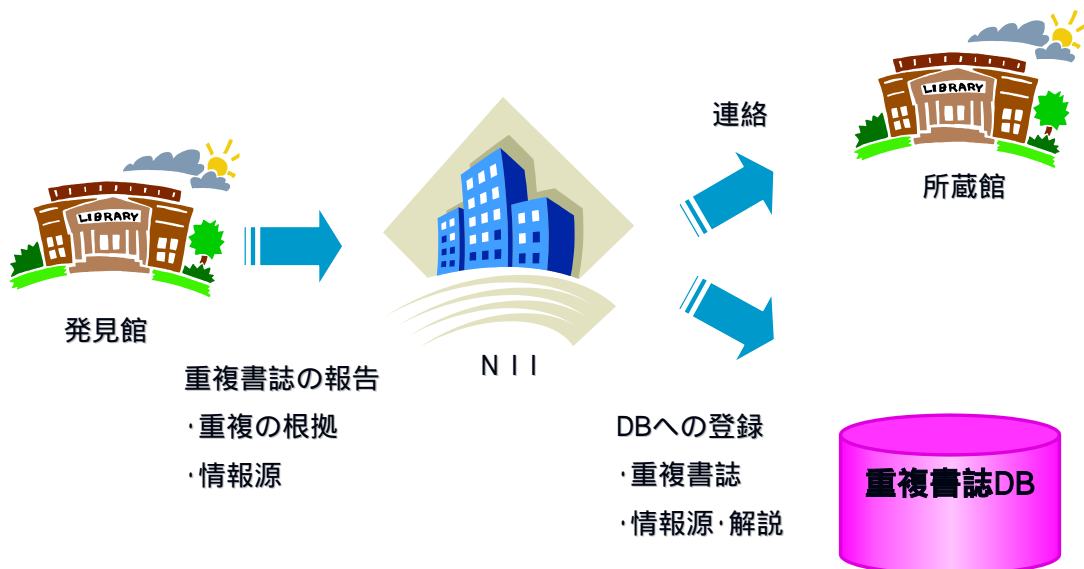


図1 重複書誌 DB

2 研修の実施

- ・ 研修を受けることで自らのスキルを高めることができる
- ・ 得られた知識や経験を個人レベルだけではなく、図書館職員全体で共有することができる

2 - 1 全国レベルでの研修：NIIによる実務研修（中級者向け）

各大学の職員が集まるので、意見交換ができる
講義形式がメインになる

（内容）

- ・ 目録規則について（より実務レベル的なもの）
- ・ 各種典拠ファイルの作成方法
- ・ 各種多言語資料（アラビア文字、ロシア文字など）の基礎知識や目録作成方法
- ・ 電子資料に関する目録業務
- ・ 委託業者への仕様書作成演習
- ・ 図書館システム導入時の留意点
- ・ TRC への体験入社

2 - 2 各館レベルでの研修：有志による勉強会など

（内容）

- ・ 基本的には発表形式（発表することで自らの知識も確かなものに・・・）
- ・ 有識者による講義形式も有効
- ・ 各種多言語に関する基礎知識や目録を取る際の注意事項
- ・ 日常業務の中で感じた疑問点
- ・ NACSIS ニュースレターの紹介、目録規則の最新動向など
- ・ 図書館学、情報学関係の論文の紹介（話し言葉なら理解しやすい）
- ・ NII 目録講習会から一步進んだ内容
- ・ 研修の報告

3 Q&A システムの構築

- ・ 知識のある職員が身近にいなくても、業務上生じた問題の解決を図ることができる
- ・ Q&A という形で知識を蓄積・提供することによって、知識と経験を共有できる

3 - 1 Q&A システムの種類

- ・ 質問&回答のシステムとしての掲示板やメーリングリスト
既に実用化されているものを参考に、より効果的なものにする
- ・ 質問・回答データを蓄積した DB
上記の掲示板やメーリングリストを通じて集まったデータを蓄積する
直接職員同士で行われた質問・回答でも、他館にとっても役に立つと思われる事例を登録してもらおう
キーワードやフィールドで検索可能

NII の NACSIS-CAT/ILL Q&A DB との違い

内容の範囲が NACSIS-CAT/ILL に限定されない

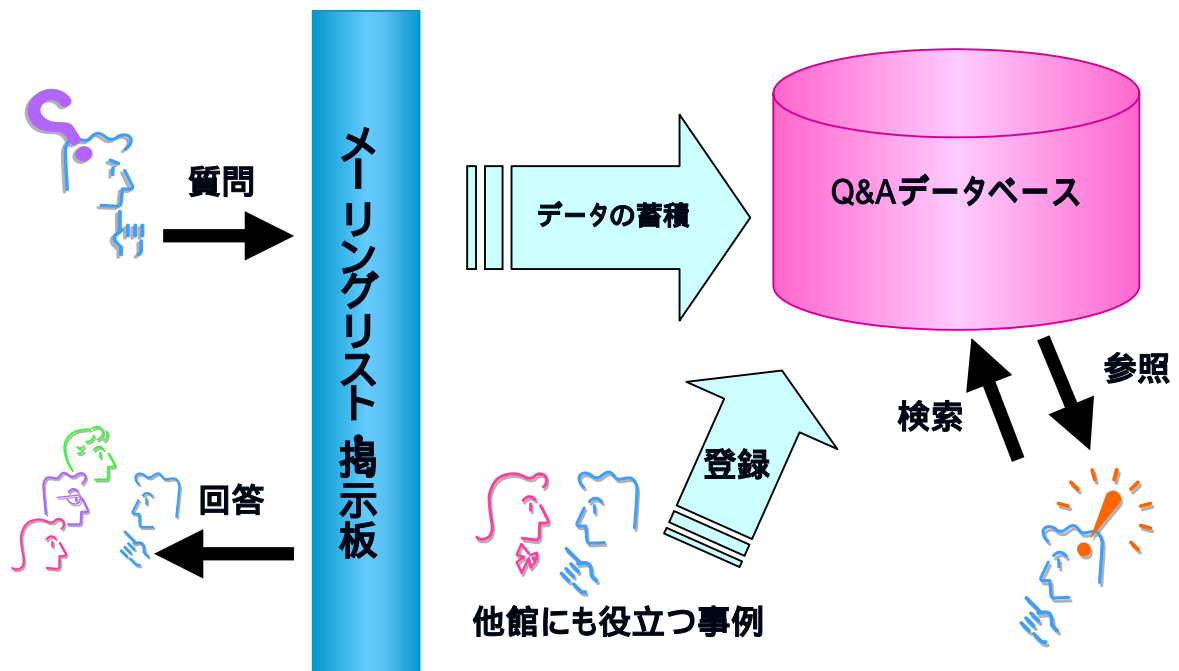


図2 Q&A システム

3 - 2 Q&A システムの範囲と構築

(各大学レベル)

- ・ 共通の環境と認識があるため、Q&A システムの構築と共有がしやすい
- ・ より詳細な質問や個別的な質問が可能
- ・ 日常業務に関したことも含んだ Q&A システムにもできる
- ・ 人事異動やアウトソーシング時の教育への対策にもなる

(より広い範囲：大学間レベル、地区レベル、全国レベル)

- ・ 事例が増えることで充実した内容となる
- ・ 大学レベルでは Q&A システムを作成できない小規模図書館等も利用できる

管理・運営については負担が偏らないように注意する

まとめ

- ・ いずれの提案についても双方向であるべき
恩恵を受けるだけ、与えるだけの一方向的にならないようにする
- ・ 知識と経験を共有しようという意識が重要
自分の得た知識を一人で完結させず、積極的に他の職員と共有させていく
この意識が3つの提案を支えていくことになる

以上提案してきた3つの手法により、双方向的に『知識と経験の共有』を目指すことは、図書館職員の目録スキルアップを可能にする

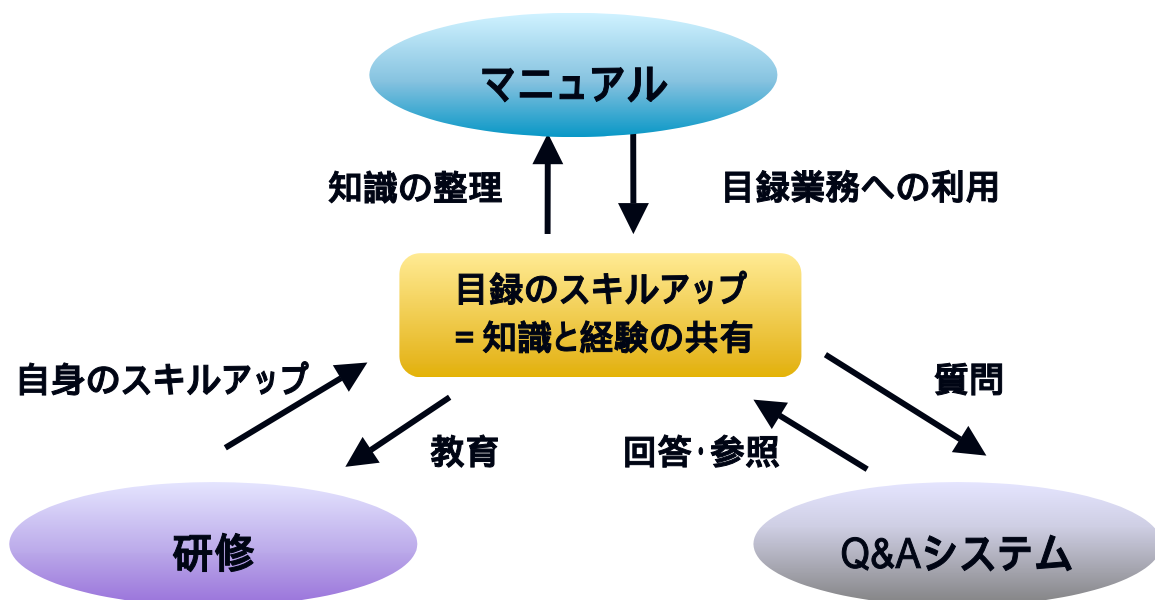


図3 3つの手法によるスキルアップへの効果